

応用研究論文

英文読解の手引き—言語学の知見とその応用—

檜山晋¹

¹ 秋田県立大学総合科学教育研究センター

言語類型論では、日本語を SOV 型、英語を SVO 型と分類するが、これは文中で動詞 (V) が日本語では遅く、英語では早く (あるいは早めに)、登場するということを意味する。この統語法の違いを頂点として、日本人学習者が英文を読解する際に直面する壁はいくつも存在する。読解という作業には実にさまざまな要素 (「語彙」、「慣用的句や表現」、「文の構造」、「文章全体の意味」、「読む量と速度」等) が含まれており、苦手な要素は学習者によって異なる。本稿では、「読解の心構え」を最初に扱い、次に認知言語学等の知見である「スキーマ」を紹介した後、「単語の記憶法」、形態論の知見である「単語の分解」、そして「文脈の力」に触れた。これらは、手軽で身近である、つまり誰でもやる気があれば取り組める、という基準に基づいて選ばれた方法である。読者の集中力を持続させるため、練習問題を中心に構成し、語学学習には毎日の積み重ねが重要であることを最後に確認して結んだ。

キーワード：英文読解、スキーマ、語の分解、文脈

英文読解の壁

日本人学習者が英文を読解するにはいくつもの壁がある。最大の壁は語順に代表される統語法 (syntax) の違いではないだろうか。言語類型論 (linguistic typology) では、日本語を SOV 型 (S は主語、O は目的語、V は動詞)、英語を SVO 型に分類しているが、この語順の違い—特に動詞の位置の違い—が他の面にもおおいに影響を与えていると考えられる。つまり、通常「文」の中心は動詞であり、この要素が最後に来る日本語、そして主語の後—早め—に来る英語とでは、話の構成・展開も異なったものになることを実感した人も多だろう。プレゼンテーション (口頭発表) の指導で、「結論は最初と最後に 2 回に述べよ」という助言がある。これを言い換えるなら、「英語的 (西洋的) な話し方をせよ」となり、日本語的な「結論は最後のみ」のプレゼンでは聴衆が退屈してしまうことへの警告でもある。¹

上述した一番高い壁以外にも、もちろん英文読解

の壁は存在する。なぜなら、読解という作業には実にさまざまな要素が関わっているからだ。以下表 1 に、具体的な「壁」の例を挙げてみる。自分にあてはまるものがないか考えながら目で追っていただきたい。

表 1 「壁」の具体例

語彙	知らない単語が多い
	見覚えはあるが、意味を予測できない
	同じ単語・表現をよく見かけますが、覚えられない
慣用的句や表現	自分の知っている訳語ではその文の意味が通らない
	個々の単語の意味は知っているが、前置詞などと一緒になると意味が不明 覚えるのが面倒
文の構造	習った英文法の応用ができない
	どこまでが一つの意味のかたまりなのか判断できない

責任著者連絡先：檜山晋 〒015-0055 由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4 公立大学法人秋田県立大学総合科学教育研究センター。

E-mail: hiyama@akita-pu.ac.jp

	関係代名詞の省略と言われても、どこに、何が省略されているのか不明
文の意味	単語の意味をつなぎあわせても、文の意味がはっきりしない
	文法的に分解することで精いっぱい、意味を考える余裕がない
文章全体の意味	個々の文は一応訳せても、それをつなぎ合わせると、意味が不明
	どの文が特に重要なのか判断できない
	文章全体の大意をとることが苦手
読む量と速度	文法や訳に時間がかかりすぎて、意味の把握の余裕がない
	訳に時間がかかり、読める量が少ない
	一語一語たどりながら、声を出して読むので、速度が遅い
	長文を読む習慣がなく、読むだけで苦痛を感じる

本稿では、これらの「壁」を乗り越える方法をいくつか取り上げる。言語学、特に認知言語学 (cognitive linguistics)・形態論 (morphology), の成果を取り入れながら、練習問題を通して、実は意外に身近で手軽な壁の克服方法が存在することを提示する。なお、以下で扱う学問的知見や練習問題は、天満(1994)に依拠するところが大きいことをお断りしておく。²

壁を乗り越える方法

読解の心構え

具体的な克服方法を紹介する前に、心構えについて触れておきたい。対象がどの言語であっても、読解に必要不可欠と思われる項目を以下に示す。

- (1) 「常識」・「推理力」
- (2) 「興味」・「向上心」
- (3) 「忍耐力」

(1)を英語にすると common sense (common knowledge) と reasoning になる。日本語の文章であっても知識のない分野の話は読解が困難であり、知

識の吸収 (インプット) を通して「考える」という訓練を続けられないことには推理・推測することもできない。「できるだけ毎日ニュースを見なさい (聞きなさい)、新聞を読みなさい」と学生時代によく言われた記憶があるが、これはまさに「常識・推理力を養いなさい」と言っていることに他ならない。³

(2)は interest そして aspiration という英語になろう。読解の対象に興味をもてない、感情移入できないとなれば、辛い時間を過ごすことになる。また、仮に興味を持たない題材であっても、「これを読めば次につながる、将来のためになる」という思い (向上心) があれば、興味の欠如を補うことも可能である。前述の(1)同様、日頃のインプットが重要である。(さらに言えば、インプットなくしてアウトプットはない。)

(3)は英語の patience にあたり、(1)・(2)以上に日頃の訓練が物を言う。ある程度の知識・推理力、そして興味・向上心を持って臨んだ文章でも、書き手の表現方法に困惑・混乱する場合も十分考えられるからだ。日常生活でも、他人の日本語の発言を聞いて、その趣旨が理解できないという経験はないだろうか。これは内容の難易度等以外に声の高さや話すスピード等が原因であることが多いが、文の読解でも同様のことが起こっていると考えることができる。Hoey (2001) のたとえを借りるなら、「読解」とは、文を通じてのコミュニケーションであり、一種のダンスである。読み手は、知識・興味等を総動員して書き手が選んだステップを理解し、次のステップを予測 (推理) しながら読み進まなければならない。ところが、書き手の好み・文体等によって、ステップの間が空きすぎたり、逆に速いステップが連続して、読み手が一緒に踊れない場合もある。これを克服するには、日々の鍛練を積み重ねて、さまざまなステップ、つまり文体、に自分を慣らすしかない。「継続は力なり」である。参考までに Hoey (2001, p. 43) の原文と拙訳を以下に挙げる：

Reader and writer are like dancers following each other's steps, and the reader's chances of guessing correctly what is going to happen next in a text are greatly enhanced if the writer takes the trouble to anticipate what

the reader might be expecting ...

(拙訳：読み手と書き手の関係は、一緒にダンスをしている人同士の関係のようなものだ。書き手が、読み手の期待していることをできるだけ予想して話(テキスト)を続けることで、読み手が話の展開を正しく予想できる可能性が大幅に高くなる。) ⁴

練習問題.

読解の必要条件(常識, 推理, 興味等)を総動員して次の英文を読みなさい(時間: 2分).

John hated his boss. He went to the bank and got twenty dollars. He bought a gun. The next day at work he decided to ask his boss for a raise. But John was so upset by his own plan that he told his boss he was sick and went home and cried. (天満, 1994, p. 13)

「読解の心構え」で上述した各必要条件に照らし合わせてこの文章を読み込むと、表2のような事項を挙げることができる。

表2 英文の読解例

常識	銀行はお金を預けたり下したりする場所
	米国では簡単に銃が買える
	米国では上司に昇給を要望できる
推理	なぜジョンは上司が嫌いなのか
	なぜ銀行に行ったのか
	銃を何に使うつもりだったのか
興味 ・ 感情移入	ジョンと上司との職場での関係
	銃を買った時、ジョンはどんな感情をもっていたか
	早退した時、ジョンはどんな気持ちだったか

文章の内容・難易度, 読解する人の判断等によって左右されるため、これらの必要条件の重要度は一定ではない。以下、一般に社会人の英文読解にとって最も重要かつ取り組みやすいと思われるものに絞ってこれから話を続けたい。

推理力とスキーマ

まず重要なのは推理力であり、推理力を働かせる際に便利なのが、「スキーマ」(schema)である。スキーマは、一般に「概要, 大意」の意味を持つが、本稿では心理学で用いられる定義、つまり「記憶として蓄積される知識の体系的な枠組」として扱う。言語学では、特に認知言語学, 語用論, 談話分析の分野で使われることが多い用語である。スキーマの具体的な説明は、次の練習問題に触れながら行うことにする。

練習問題.

レストランで食事をする場合の一般的な行動・手順を想像しなさい(時間: 2分).

(巻末の注で解答例をご覧になってから、次の練習問題に進んでいただきたい。) ⁵

練習問題.

レストランのスキーマを使って次の文章を読みなさい(時間: 1分).

John went out to a restaurant last night. He ordered steak. When he paid for it, he noticed that he was running out of money. (天満, 1994, p. 17)

ここで読者に質問: “Did John eat the steak?”

レストランのスキーマを振り返ると、「料理を食べる⇒代金を払う」という順番が一般的なため、答えは “Yes, he did.” となる。

練習問題.

ふたたび、レストランのスキーマを使って次の文章を読みなさい(時間: 1分).

John entered the restaurant and sat down. Suddenly, however, he realized he had forgotten his reading glasses. (天満, 1994, p. 17)

ここで読者に質問: “Why did he realize that he had forgotten his reading glasses?”

レストランのスキーマでは、着席してからメニューを読むため、その時に小さい文字が読めず…と老眼鏡 (reading glasses) につながる。つまり答えは、“Because he tried to read the small print in the menu.”となる。

スキーマは読解にとって強力な武器になることを理解いただけたと思う。ただし、微調整・部分修正が必要なことを頭の隅に入れながら柔軟に読解を進めることも大切である。レストランのスキーマを思い出していただくと、「ファストフード」レストランの場合なら、支払の順番が先になる、席に案内されない、など細かく変わってくるわけだ。

スキーマの締めくくりとして、次の練習問題に挑戦していただきたい。

練習問題.

イメージの変化に注意して次の文章を読み、ジョンの職業を言いなさい (時間 : 2 分)。

- (1) John was on his way to school last Friday.
- (2) He was really worried about the math lesson.
- (3) Last week, he was unable to control the class.
- (4) It was unfair of the math teacher to leave him in charge.
- (5) After all, it is not a normal part of a janitor's duties.

(天満, 1994, pp. 20-21)

(1)と(2)では、ジョンは「学校に通い」、「数学の授業を心配」しているので、生徒または教員等の学校関係者の可能性がある。(3)では、「クラスの生徒を監督・管理できなかつた」ので、生徒の可能性は消える。(4)には、「数学の教員がジョンにクラスを任せただけは不当だった」とあるので、ジョンがクラスを担当する立場、つまり教員である可能性は小さくなる。そして最後の(5)で janitor という言葉が出てジョンの職業がわかる。「用務員」が正解。

その他の方法

ここまで来て、「確かに推理力・スキーマが大事なことはわかった。しかし単語や表現を知らなければ

読めないのではないか」と思う読者もいるだろう。英文読解には、基本的な英文法の知識、そして、ある程度の量の単語・表現の貯えが必要であることは言うまでもない。ここからは単語・表現について述べたい。

単語の記憶法

まず、効率的な記憶法を紹介した文章を紹介したい。

Do you have trouble remembering new words in English? Many people have this problem. This method may help you to remember new words. (1) Look at the new word. Look at the letters and the shape of the word. Close your eyes. Can you see the word? (2) Listen to the word. Listen to the sounds in the word. Look at the word as you listen. (3) Say the word aloud. Close your book. Do not look at the word. Can you say it? (4) Write the word. Write it three or four times. Say the word as you write it. (5) Use the new word. Use it in class today, and use it at home tonight. Use it tomorrow and next week. Look for the new word in the newspaper and listen for it on the radio or on the television. To remember a new word, you must use it. (天満, 1994, pp. 22-23)

これは英語を母語とする人への記憶法を述べた文章だが、われわれにも十分通じるものがあると思われる。是非試していただきたい。以下、内容を簡潔にまとめてみる。

- ① 形を記憶
- ② 発音を聞く
- ③ 発音してみる
- ④ 見ないで発音
- ⑤ 3~4回書く
- ⑥ 自分で使う

単語の分解

長い(あるいは長めの)英単語を見かけたら、分解する習慣をつけることも有効である。たとえば、形容詞 inapplicable を例にとると、

inapplicable

= in- (～ない)

+ applici(c)- (応用する, あてはめる)

+ -able (～できる)

= 応用できない, あてはまらない, 不適当な

のように分解できる. 是非, 次の練習問題に挑戦していただきたい.

練習問題.

次の単語を分解して意味を推測しなさい (時間: 2 分).

- (1) inaccessible
- (2) indispensable
- (3) incomprehensible
- (4) irreproachable
- (5) inflammable

解答: 接尾辞 -able/-ible は全て「～できる」の意味であり, 以下ではそれ以外の要素に触れる.

(1) in (～ない) + access (接近する) + -ible

(2) in (～ない) + dispens (⇒ dispense 免除する) + able

(3) in (～ない) + comprehens (⇒ comprehend 理解する) + ible (現代フランス語の知識がある読者は, 英語の take にあたる prendre 「取る, つかむ」から, comprehens をさらに 強意の接頭辞 com + prehens に分けたかもしれない.)

(4) ir- (～ない) + reproach (非難する) + able (接頭辞 in- が次に来る r に同化して ir- となった例. 同様に, in- は次の綴りに同化して il-, im- に変わることもある.)

(5) in (強意) + flamm (⇒ inflame 燃え上がる) + able (接頭辞 in- の意味が一様ではないことを示す好例). *American Heritage Dictionary* (3rd ed.) の “flammable” の注は興味深いので次に引用する: “Historically, **flammable** and **inflammable** mean the same thing. However, the presence of the prefix **in-** has misled many people into assuming that **inflammable** means not ‘flammable’ or ‘noncombustible’. In the circumstances, it is therefore advisable to use only

flammable in contexts imparting warnings or on product labels, where a misinterpretation might have more serious consequences for the reader than an etymological mistake would deserve.” (拙訳: flammable と inflammable は歴史的に同じ意味(「燃えやすい」)だったが, inflammable の in- を否定の接頭辞だと思いついて「燃えない」の意味に誤解するネイティブスピーカーが多くなってしまった. 警告や製品ラベルでは(誤解を避けるために) flammable を使うことが望ましい.)

ここまで来ても, まだ読者の不安は解消されないかもしれない. 事実, この方法にも限界があり, 残念ながら全部の単語がきれいに分解できるわけではない. 大切なことは, 文章の中で未知の単語に遭遇しても, けっしてあわてたり, わからないとあきらめてしまわないことである. 本稿の冒頭であげた「忍耐力」を思い出していただきたい.⁶

また, 語の分解から, 語源的アプローチを連想した読者もいるかもしれないが, 語源を利用して効率よく記憶する方法は初学者向きではないと私は考える. たとえば, 上述の inflammable で触れたように, 接頭辞 in- には「否定」の意味があるが, 他には「休止, 運動, 強意」等の意味もあり, 中途半端な語源的アプローチはかえって危険である. TOEIC で 730 点以上のスコアを獲得するような中級者以上の人で, しかもそのアプローチが自分に合っていると思う人にはこの方法をお勧めしたい. ちなみに, 英語のより深い理解には, 古代語(ギリシア語, ラテン語, そして可能ならばサンスクリット語), 中世語(古英語・中英語, 古ノルド語, 古サクソン語等), そして現代語(フランス語, イタリア語, スペイン語の少なくともどれか2つ, そしてドイツ語等)の知識が非常に役立つことも申し添えておく.

文脈の力

わからない単語をいちいち辞書で調べていたのではなかなか先に進めない. ところが, 実際に文章を読むと, 文脈, つまり文の前後関係である程度意味がわかることが多いことに気づく. 辞書を引くのをできるだけ先延ばしにする忍耐力の重要性を, 次の練習問題を通して再確認していただきたい.

練習問題.

次の文章を読みなさい (時間 : 3 分). わからない単語があっても, その意味は文脈で判断しなさい.

(a) Energy may be divided into potential and kinetic.

(b) Potential energy, because of its position, is able to do work, while kinetic energy is energy of motion.

(c) Energy may be changed from one type of energy to the other.

(d) For example, food may possess potential energy but the potential energy becomes kinetic when the food is being used by the body.

(e) A raised hammer may possess potential energy but as it falls and drives a nail the potential energy is changed to kinetic. (天満, 1994, p. 27)

文(a)の potential と kinetic という単語が気になった読者が多いと思う. 辞書を使いたいという気持ちを抑えつつ読み進むと, (b)の文がそれらをわかりやすく説明していることに気づく. (c)ではエネルギーの形が変わる可能性が示され, (d)以降の文では具体例に触れている(「位置エネルギーを持つ食べ物が体内に入ると運動エネルギーに変換される. ハンマーを振り上げるとそれは位置エネルギーを持つが, 振り下ろされて釘を打ち込むと運動エネルギーに変換される»). 2つのエネルギーの大体の違い・特徴をつかむことができれば合格である.

まとめ

本稿では, 最初に具体例をあげながら英文読解の壁を確認し, 次に読解の心構えを大きく 3 つ(「常識」・「推理力」, 「興味」・「向上心」, 「忍耐力」)に分けて扱った. そして, 壁を乗り越える方法・読解を効率よく進めるための強い味方として, 「推理力・スキーマ」, 「単語の記憶法」, 「単語の分解」, 「文脈の力」に触れた. 練習問題を通して, 読者には各項目の主旨を理解いただけたと思う.

最後に, 本稿では読解に絞って話を進めたが, 語学学習にとって一番大事なことは, 毎日コツコツ続けることであることを再度確認したい. 外国語の学

習は異文化理解の第一歩であり, 人生を豊かにするさまざまな機会を提供してくれる. 毎日ニュース, ドラマ, 映画, 音楽などなんらかの方法で英語(あるいは他の外国語)に触れていただければ幸いである.

文献

Carstairs-McCarthy, A. (2002). *An Introduction to English Morphology: Words and Their Structure*. Edinburgh University Press.

Hoey, M. (2001). *Textual Interaction: An Introduction to Written Discourse Analysis*. Routledge.

伊集院郁子, 高橋圭子 (2012). 「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文の構造的特徴—「主張」に着目して—」『東京外国語大学国際日本研究センター 日本語・日本学研究』2, 2-16. Retrieved from <http://www.tufs.ac.jp/common/icjs/nl/jo0002.pdf>

天満美智子 (1994). 『新しい英文読解法』. 岩波書店.

注

¹ 私はここで「日本語は必ず結論が最後, 英語は必ず結論が最初」と述べているわけではなく, 統語法の違いがひとつひとつの文の構成だけでなく, 文章(話)全体の構成にまで影響を与えている可能性に言及しているのみである.(書き言葉・話し言葉の違い, 話の種類(ジャンル)の違い, 個々人の好みの話の展開, そして文体等等を考慮すれば, そうした一般化が不可能なことは明白である.)しかし, 従来の日本型の話の展開では, 経緯等の説明から始め, 後半以降でやっと結論に触れる形式が多いことも事実であろう(たとえば, 伊集院と高橋, 2012, pp. 1-2 参照). この形式は, 読み手・聞き手に過大な集中力を要求するもの, 更に言えば, 情報過多の時代で集中力をすり減らしているわれわれには耐えがたいもの, になってしまったのではないだろうか. こうしたことが背景で, 「結論が最初」の話の展開が求められているのであろう.

本稿で扱う、読解の対象としての「英文」は、新聞や雑誌等の記事に代表される、一般的な論述文を想定している。上述した従来の日本型の話の展開が有効なジャンル（たとえば「ものがたり」、「むかしばなし」等）が存在することは疑いの余地がない。ただしこの有効性は、話がどれだけ読者・聴衆を引きつけられるか（＝話の力）、そして読者・聴衆をいかに飽きさせないように書くか・話すか（＝書き手・話し手の力）、の2点に大きく依存している。ちなみに、本稿が練習問題を中心としているのは、読者の集中力が持続するようにとの配慮からである。

² 本稿は、2012年に行った次のセミナーの内容を再構成し、大幅に加筆修正したものである：「英文読解のキホン～攻め方・踊り方～」（「教養と遊ぶ」秋田県立大学市民公開セミナー、由利本荘市文化交流館「カダーレ」市民活動室、2012年4月21日）。また、筆者は高大連携授業「由利高校英語セミナー」で毎年講師を務めており、2013年5月に開催した3回のセミナーでも本稿の内容の一部を扱いながら、今は秋田県内（あるいは由利本荘市内）に居ながらにしてさまざまな英語に触れることができる時代であること、そして自分のやる気次第で道が開ける時代でもあることを高校生に熱く語りかけた次第である。

³ 「情報化社会」という言葉が流布して久しいが、メディアの多種化・複雑化が進む現代、「情報武装」する必要がますます高まっているように感じる。もちろんこれは盲目的な情報武装（収集）であってはならない。特に、マスメディアとの距離をどう取るか、は各個人が自分の責任で決めなくてはならない重要な問題である。

⁴ Hoey (2001) は書き手側の配慮にも言及しているが、読み手（読者）を対象にした本稿では扱わない。

⁵ 解答例：予約⇒店に入る⇒案内⇒着席⇒メニュー⇒注文⇒待つ（調理人が料理）⇒料理が届く⇒食べる⇒勘定書をもらう⇒支払⇒店を出る（「予約」の前に「店を決める」・「一緒に行く人を決める」等が入る、など他の当然他の可能性もある。）

⁶ ここで扱う単語の分解は形態論（語形論）の範疇である。紙面の都合上、この分野にはこれ以上詳しくは触れないが、Carstairs-McCarthy (2002, p. 18)

の次の有益な指摘にのみ言及しておく：“... the morphological structure of words is largely independent of their phonological structure (their division into sounds, syllables and rhythmic units). ... What matters here is just that you should avoid a mistake that beginners sometimes make, that of confusing morphemes with phonological units such as syllables.”（拙訳：語の形態構造はその音韻構造から独立していることがほとんどである。…初心者には形態素と音節のような音韻の単位を混同することがあるが、こうした間違いをしないことが肝要である。）

平成 25 年 11 月 27 日受付
平成 25 年 12 月 11 日受理

English Reading Made Easy: With a Little Help from Linguist(ic)s

Susumu Hiyama¹

¹ *Research and Education Center for Comprehensive Science, Akita Prefectural University*

There are many obstacles that Japanese learners of English face when they try to read English. For example, in linguistic typology, Japanese is classified as an SOV language while English is classified as an SVO language. This difference in verb position seems to have further implications; it seems likely that this affects the way the users of the language construct stories as well as sentences. Thus, what is most important often comes at the end in Japanese stories, whereas the opposite seems closer to the truth in English stories. Drawing on some of the findings in linguistics — cognitive linguistics and morphology in particular, the present article proposes accessible solutions to these problems. After listing some of the obstacles, this article first reminds the reader that common sense (common knowledge), reasoning, interest, aspiration, and patience are required in reading. Then, it goes on to introduce some techniques (schema, word division, and context) which may help the learner to read English more easily. Reading English may be much easier than you might think!

Keywords: reading, schema, word division, context